

人真似鳥

室生犀星

青空文庫

懸巢は猛鳥で肉食鳥であるが、時々、爪を剪つてやるために籠から掴み出さなければならぬ。からだを掴まれることを厭がりあれ程狎^なれていても、嘴で確^{しつ}かりと咬み付く、咬みつくとブルドッグのようにどうしても放さない、二年間金アミの中で金の柵ばかり啄つている嘴の尖端^{さき}は鋭く砥がれていて、先の方で鍵型にちよつと曲り、手の肉にくい入るのである。爪でしっかりと指にしがみ附かれると、肉にくい入る。私は手袋をはめて掴むのであるが、手袋でないと傷がつくからである。

生きている虫なら何でもくう。砂糖もなめるし林檎、みかん、柿、梨、何でも手当り次第にやるとくう。砂糖が何ともいえぬ程

うまいらしい、うまい物は栗鼠^{リス}のように咽喉の前の袋になつてい
るところに入れて置いて、あとでゆつくり喰べるらしい。

梅もどきや青木の実は口から出したり入れたり餌の壺の中に匿
したり籠の隅の方に匿したりする。物をかくす習癖があるらしい
のである。胡桃^{くるみ}をすり込んだ日はよけいに食う。餌食の荒さはそ
の性質の猛々しさを証拠立てている。

鳥は鋭い眼をしている奴ほど眼が利くらしい。鷺などはその一
例である。ことに懸巢の眼は円くて睨み続けているように美しい、
何時か眉の毛を一本籠の中に入れたら、すぐ下りて来て^{くわ}啜えた程
眼が利くのである。機嫌のよしあしは籠のそばに寄って行くと、
籠のはりがねを啄^つついたり啜えたりして騒ぐ、そんな時は甘いよ

うなくすぐ擦すりつたいような顔附をしている。鳥でもこれほどに狎なれるものかと思う。指を出してやると咥くはえてじつとしている。けれども身体に触ることを厭いとがり無理にさわると啄くちつく。

鳥の表情にはいろいろあるが、音楽などを聞かせると、必ず首をまげて考え込むようなふうをする。これは人間でもそうであるが凡ゆる動物はみんな左そうらしい、鳥の眼瞬まばたきはほど美しいものはないが、懸巢けんそうの眼瞬まばたきは迅はやくてぴりぴりした神経的なものであつて、何とも言えぬ美しさを持っている。欠あくび伸のびをする時はほかんと嘴くちばしを無感覚的に開け、伸びをする時は翼をひろげてするのである。悲しい時はどういう顔をするか私には分らないが、遠くから虫をつかまえて見せてやると、籠の中で羽ばたいて喜び勇んで見せる。

水をつかわせているうち前後四度放れたが、庭の中を去らぬので捕まえることが出来た。こういう珍しい懸巢は再び手にはいるまいと思い、きき羽根を三四本剪つて置いた。はじめは小鳥を手握ることが出来なかつた私も、この頃では迂らぬように旨くつかむことが出来るようになった。何だか神聖なものを洗けがすような気がしてならぬ。触つてならぬものに触る不思議な遠慮を感じるのである。鶉などは手にそつと握つて庭の中を持って歩いて、蜘蛛くや梅擬も うめもどきの実などを喰べさせているが、放したら狎なれていても子飼いでないから逃げるであらう、懸巢は赤裸の時分からそだてたので外部の生活を知らないから、放れても餌につくけれど、子飼いでない鳥はそう行かないらしい。頬白など五年も飼つてい

るがどうにも狎れない、気性が荒いのも、野にいたのをそだてたからであろう。どうも頬白という鳥は憎たらしくてならぬ。餌を代えてやってもチチチと啼いて反抗的に嘴をあけて挑むようなふうをするのである。

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆2 鳥」作品社

1983（昭和58）年4月25日第1刷発行

1995（平成7）年10月30日第18刷発行

底本の親本：「室生犀星全集 第七巻」新潮社

1964（昭和39）年9月

入力：門田裕志

校正：川山隆

2012年12月7日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

人真似鳥

室生犀星

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>